

## 山口大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

当院では、以下の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、以下の問合せ先までお申出ください。

その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

① 研究課題名	充実成分を有する原発性肺腺癌のCT解析			
② 実施予定期間	実施許可日から 2025年3月31日			
③ 対象患者	以下の対象期間に山口大学医学部附属病院で手術が施行され肺腺癌と診断された患者さん			
④ 対象期間	2016年1月1日から 2021年12月31日			
⑤ 研究機関の名称	山口大学医学部附属病院			
⑥ 対象診療科	第1外科			
⑦ 研究責任者	氏名	國弘佳枝	所属	放射線科
⑧ 使用する情報等	胸部CT画像、病理診断結果、年齢、性別、喫煙歴、既往歴、家族歴、診断結果、術後の経過			
⑨ 研究の概要	<p>原発性肺癌は日本人の癌死症例で最も多い癌であり、予後不良ですが、早期診断や適切な治療を行うことにより治療成績の向上も見込める疾患です。肺癌の診断を行う際には胸部単純X線写真およびCT、特に高分解能CTでの画像学的な評価が必須であり、高分解能CTではサイズや性状、進行度を詳細に評価することが可能で、質的診断や治療方針の決定に有用です。原発性肺癌のうち、腺癌は特に高分解能CTが病理所見をよく反映するとされており、非浸潤性腺癌では高分解能CTですりガラス成分、浸潤性腺癌では高分解能CTで充実成分を呈することが多いとされます。すなわち、充実成分を有する腫瘍はそうでない腫瘍と比較してより進行している可能性が高いです。2017年にがんの進行状態を示すために用いられるTNM分類が改訂され第8版となり、T因子の決定にはこれまでは腫瘍の最大径が必要でしたが、新しい分類では充実成分径を評価することになりました。しかし、これまでには充実成分に注目した原発性肺腺癌のCT所見について、まとまった症例数を対象とした研究は乏しいのが現状です。</p> <p>研究の目的は、充実成分を有する原発性肺腺癌の画像学的な特徴を検討し、定量評価を行い、病理所見との関連を検討することです。この研究により、原発性肺腺癌の早期発見および早期診断、適切な治療方針決定につながる可能性、進行度の類推、予後予測にも有用な情報が得られる可能性があります。</p>			

⑩ 実施許可	研究実施許可日	2022年 12月 14日		
⑪ 研究計画書等の 閲覧等	研究計画書及び研究の方法に関する資料を他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で入手又は閲覧できます。詳細な方法に関しては以下の問い合わせ先にご連絡ください。			
⑫ 結果の公表	学会や論文等で公表します。			
⑬ 個人情報の保護	結果を公表する場合、個人が特定されることはありません。			
⑭ 知的財産権	山口大学に帰属します。			
⑮ 研究の資金源	放射線医学講座の奨学寄付金にて行います。			
⑯ 利益相反	ありません			
⑰ 問い合わせ先・ 相談窓口	山口大学医学部附属病院 放射線科 担当者：國弘佳枝			
	電話	0836-22-2285	FAX	0836-22-2285